

令和 5 年度 学校関係者評価結果報告書

令和 6 年 3 月

評価対象期間:

自令和 5 年 4 月 1 日

至令和 6 年 3 月 31 日

公益財団法人

鯉淵学園

鯉淵学園農業栄養専門学校

学校関係者評価委員会

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の趣旨

鯉淵学園農業栄養専門学校における学校関係者評価の目的と基本方針は「学校関係者評価委員会規程」第1条に定める通り「鯉淵学園農業栄養専門学校（以下「学園」という。）が実施する自己評価結果の客観性・透明性を高め、学園と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。」ことである。

2. 学校関係者評価委員会の審議事項

鯉淵学園農業栄養専門学校における学校関係者評価の審議事項は同じく「学校関係者評価委員会規程」第2条に定める通り

(1) 自己評価委員会によって定められた自己評価の基本方針、実施体制、実施方法及び評価項目

(2) 自己評価結果に基づく改善策の提案事項

(3) 学校関係者評価報告書の作成及び公表方法

(4) その他審議が必要とされる事項

3. 基本方針

鯉淵学園農業栄養専門学校における学校関係者評価は文部科学省生涯学習政策局『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

4. 委員会運営

学校関係者評価委員会を以下のように年2回開催する。

添付：自己評価集計／学校関係者評価（令和元年度は前年度未実施のため無し）

①第1回目(8月)に実施する委員会は、前年度の委員会運用実績および報告に対する改善の実績および今年度の自己評価項集計結果を学校から報告する。

②第2回目(3月)に実施する委員会は、当年度実施した自己評価の概要を学校より報告し、評価・改善の提言を行う。

5. 自己評価の仕方

自己点検評価の実施 鯉淵学園農業栄養専門学校は、学校関係者委員会の実施に先立ち、『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って、令和元年度自己点検・自己評価を実施した。自己点検・自己評価の点検項目は、12 分類 70 項目である。『令和元年度（2019 年度）自己評価集計結果』には、各項目の自己点検実施状況を記載し、自己評価ポイント（適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）を示した。また、項目ごと、職員の記載した現状および問題点と改善策を記載し、自己評価委員会の審議を経て学校関係者評価委員に提出した。

6. 自己評価の実施

期間：令和 6 年 3 月 13 日～3 月 23 日

対象：パートを除く教職員（事務職員も含む）40 名 退職予定者を除く

回答数：32 名

7. 自己評価委員会の開催

令和 6 年 3 月 25 日

自己評価委員会名簿

長谷川 量平	委員長 学園長
前島 智	委員 アグリビジネス科副学科長
野口 貴彦	委員 食品栄養科学科長
山本 春香	委員 管理部学務課
秋葉 勝矢	委員 農業技術センター長

II 学校関係者評価委員 名簿

氏名	所 属	適 応
*****	茨城大学 教育学部 教授	中学校及び高等学校の 校長または進路指導担 当者
*****	茨城県議会議員	地域住民
*****	公益社団法人 元会長	専門分野における業界 関係者
*****	社会福祉法人 施設長	専門分野における業界 関係者
*****	鯉淵学園同窓会 会長	卒業生

※任期は令和5年4月1日より令和7年3月31日

III 学校関係者評価委員会の実施状況

令和6年 3月29日

欠席委員：なし

学内関係者：長谷川量平 副学園長

大熊 哲仁 アグリビジネス科副学科長

野口 貴彦 食品栄養科学科長

学校関係者評価委員会 進行状況

自己評価結果の解説とその評価

- 教育理念・目的
- 学校運営
- 教育活動
- 学修成果
- 学生支援
- 教育環境
- 学生の募集と受入れ
- 財務
- 法令などの遵守について
- 社会貢献・地域貢献
- 国際交流
- 学風について

評価結果の判定（評価シート記入）

IV学校評価委員会評価結果

1. 評価の仕方

自己評価結果の評価 学校関係者評価委員は、鯉淵学園農業栄養専門学校の説明を受け、自己評価集計結果 の内容及び、自己評価結果の評価方法を理解した上で、鯉淵学園農業栄養専門学校が行った自己評価結果について5名の評価委員によりA適切である Bまあ適切である5 C若干の改善が必要である D改善が必要であるの4分法にて評価を行い、その理由や意見を書面により表した。

2. 項目別評価結果と主なコメント（未記名）

○教育理念・目的

A 適切である B まあ適切である4名 C 若干の改善が必要である1名 D 改善が必要である

（学校）18歳人口が減少する中になっては、社会人教育へのシフトが必要ではないか

○学校運営

A 適切である B まあ適切である5名 C 若干の改善が必要である D 改善が必要である

学校評価全体が一昨年下がったと思ったが改善がみられる。

○教育活動

A 適切である1名 B まあ適切である3名 C 若干の改善が必要である1名 D 改善が必要

である

職員研修の充実が必要ではないか。

○学修成果

A 適切である B まあ適切である3名 C 若干の改善が必要である2名 D 改善が必要で

ある

資格取得などの成果は向上、学生への資格取得インセンティブが必要。

○学生支援

A 適切である B まあ適切である4名 C 若干の改善が必要である1名 D 改善が必要であ

る

カウンセラーの定着が評価される。

○教育環境

A 適切である B まあ適切である C 若干の改善が必要である 5名 D 改善が必要である

学食は必須ではないか？食と農の学校で良い食事を提供するようにしたい。

○学生の募集と受入れ

A 適切である 3名 B まあ適切である 2名 C 若干の改善が必要である D 改善が必要である

ある

○財務

A 適切である B まあ適切である C 若干の改善が必要である 3名 D 改善が必要である 2

名

大口の寄付があったので財務はよく見える。

○法令などの遵守について

A 適切である 5名 B まあ適切である C 若干の改善が必要である D 改善が必要である

○社会貢献・地域貢献について

A 適切である 4名 B まあ適切である 1名 C 若干の改善が必要である D 改善が必要である

る

岩間中学校との交流のようなことをもっとすべきである。

○国際交流

A 適切である 4名 B まあ適切である 1名 C 若干の改善が必要である D 改善が必要である

る

○学風について

A 適切である 3名 B まあ適切である 2名 C 若干の改善が必要である D 改善が必要である

ある

鯉淵学園の歴史や変遷など職員が多く理解すべきである。(昨年と同じ)